

秋田市子ども読書活動推進計画(案)に対する意見等一覧

(資料1)

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
第1章 計画策定の趣旨	P1	1	「意義・目的」と「計画の対象等」は書かれているが、市としてこれからどのような方向に向かって取り組んでいくのか、目指す方向性についても明示してほしい。	目指す方向性に関しては、第2章において、読書活動の現状と課題を整理した上で、その具体的な対応策を表しています。
1 意義・目的	P1	2	(5)で目的が述べられているものの、意義・目的が不明瞭な感じがする。	第1章1意義・目的において、背景となる状況や国・県の動きなどをまとめ、計画策定の目的を記載しています。
(1)計画策定の背景	P1	3	意味が少しわかりづらい。「子どもの読書活動は～」という表現が全体の文章につながらない。「子どもが読書を通して～」などにしてはどうか。	子どもの読書活動の推進に関する法律第2条の基本理念に関する条文の一部を引用し、このような記述としています。
	P1	4	「このために」「しかし」「このような」の接続語が不適切なのか、4つの文が繋がっていないような感じがする。そのため、何を言おうとしているのかが、ぼやけてしまっているのではないか。(案を別紙に記載)	指摘の案を参考に、文章のつながりの一部を修正します。
(3)国の動き	P1	5	1行目の「国では～」と9行目の「～政府は～」はどう違うのか。	国は～」に統一します。
	P1	6	「資料1」とあるが、添付されているのは「資料」となり、「1」は無い。	「資料」に修正します。
(4)秋田市総合計画等	P2	7	「～青少年に読書の体験を伝えられるような機会」を設けること～」の記述について、青少年に誰かが読書の体験を伝える機会なのか、青少年が読書の体験を伝える(ことができる)機会なのか、表現が紛らわしい。	「青少年に対して読書の体験を伝えられるような機会」と修正します。
2 計画の対象等				
(1)計画の対象	P3	8	民間の支援サークルも市内に多くあるが、これらへの支援はあるのか。	「対象施設等」に記載した「読書関係ボランティア等」の中に含まれております。
	P3	9	「0歳から概ね18歳以下～」とあるが、「子どもの読書活動の推進に関する法律」では「子ども(おおむね18歳以下～」と平仮名であり、統一する必要はないか。	指摘のとおり、「おおむね18歳以下～」と修正します。
(3)計画の概念図	P3	10	矢印にそれぞれの役割を書き記してほしい。	矢印には主に働きかけの意味合いがありますが、役割を記述するとなると多岐にわたるため、この記述は省略しています。 なお、図の下に簡単な解説を加えることとします。
	P3	11	図が漠然としすぎている。矢印や「学校等」「図書館等」「家庭」を結ぶ線の意味が分からないので、分かるようにしてほしい。	矢印や線の意味を記述するとなると多岐にわたるため、この記述は省略しています。 なお、図の下に簡単な解説を加えることとします。
	P3	12	行政とは、教育委員会を指すのか。わかりにくい図だと思う。簡単な説明を加えてはどうか。	「行政」は、教育委員会を含む行政全体のことを表しています。 指摘のとおり、図の下に簡単な解説を加えます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容	意見等に対する対応
第2章 読書活動の現状、課題および対応策	P4	13 子どもに読書の癖を付けることが、全てに優先する要点だが、計画には教条的な面のみ強く出てきていて、子どもには魅力がない。善悪清濁なんでも子どもの欲しい本を自分で選ばせておけば、そのうち良い本を選ぶ力が付いてくるものだ。小学生までの保護者に講義する機会をつくれれば、一生読書に親しむ人間づくりに最も有効だと思う。しかし、悪ど蜀のつまらない本は図書館にはないので、本屋で買物ついでに好きな本を一冊買ってやることから始まるものだ。親に対する読書指導の仕方を計画に盛り込む必要があると思う。	小・中・高校生の読書活動の課題として、「子どもが主体的に読書活動に取り組むための支援」を記載しており、子どもが自ら本を選ぶことも重要だと考えています。また、保護者への指導については、「家庭での読書の重要性の周知」の対応を通して取り組むこととしています。
	P4	14 現状、課題、対応策が簡潔にまとまっていると思った。対応策が実施されると、子どもの読書活動が、ますます広く深くなっていくだろうと思う。	本計画の実現に努めていきます。
	P4	15 4ページ下段の注釈1に調査対象のサンプル数が必要。	秋田市のホームページの生涯学習室のページに、サンプル数データを参考に記載します。
1 乳幼児の読書活動	P4	16 今後の対応策」には様々な取組があげられているが、ひとつひとつの内容が重要になってくると思う。訴える力のあるものにするためにも、それなりの見識ある方に携わってもらいたいと思う。	子どもの読書活動に関係する方からの意見等も参考に本計画を作成してきており、今後、事業等を実施する際にもそのような方の意見等に留意しながら進めていきます。
	P4	17 子育て支援団体としてアンケートを実施し、その中に「絵本の読み聞かせコーナーや手遊びコーナーがあったらいいな。」という回答があった。絵本の読み聞かせのコツを伝授するような「絵本の読み聞かせ達人養成講座」を計画に入れてほしい。	読書関係ボランティアの養成を進める中で検討していきます。
(1)乳幼児の読書活動の現状	P4	18 「～読み聞かせ等の機会が少ない家庭では、保護者が多忙なことにより、時間の確保」が課題としてあげられています。」と記述があるが、「現状」と「課題」が呼応していないように思う。ここは、課題ではなく現状として捉え、「～保護者が多忙なことなどにより、時間の確保」が難しく、読み聞かせ等の機会が少ない家庭があることも認めません。」としてはどうか。	課題」の表現を改め、「時間の確保」が理由としてあげられています。」に修正します。
	P5	19 「配布物」と記されているが、子どもにも保護者にも心に残る絵本が「配付」されていた。配布物」ではなく配付された本」などにしてはどうか。	本の他に本の情報を伝えるチラシ等も含むことから、配布物」という表現にしています。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
	P5	20 図書館を利用しない理由として「駐車場が利用しづらい」をなぜあげていないのか。利用する理由として「駐車場が利用しやすい」があるかもしれないが、フォンテ文庫等を利用したくとも駐車場が利用しづらく(料金がかかる等の理由も含む)行けないという保護者の声も耳にする。先日、フォンテ文庫に行ってみたが、平日に私と嫁、孫だけしか訪問者がおらず、とても良いところではあるが寂しく感じた。お金をかけている割に残念だ。子育て中の保護者にとって、駐車場代は高いと思う。明德館の場合は駐車場が混んでいるときがあるので、小さい子どもを連れて行くときは大変だと思		調査結果の集計方法を変更したため(就園児と未就園児を合わせた集計に変更)若干データが変動し「駐車場がしづらい」も理由にあげることになりました。 図書館の駐車場を改善するには、施設改修等が必要となることから、本計画では対応策として取り上げてはいませんが、長期的な課題として検討していきます。 なお、フォンテ文庫を利用する際には、電車やバスの公共交通機関の活用も検討願います。
注釈 2 (P5)	P5	21 「クーポン券」について、7ページの記述で少しは分かるが、これだけだと金額や対象年齢など当事者でなければ分からない。必ず直しておくべきだと言うものではない。))		親子の絵本プラン」に関する注釈の中で、簡単に解説しています。
(2)乳幼児の読書活動の課題	P6	22 コミセンは小さな子どもがいる大人も利用することから、図書の貸出ができればと思う		現時点では、コミセンにおける絵本の貸出しは困難だと考えますが、今後、対応等を検討する際に参考とします。
	P6	23 持ち運びに不便な大型絵本よりも親子の絵本プランから推薦する絵本の貸出しサービスもしてほしい。		市立図書館では、個人または団体に対する絵本等の貸出しを行っていますので、これを利用願います。
	P6	24 乳幼児への読み聞かせは、乳幼児への何よりも勝る贈り物だと思う。落ち着いて考える思考力を養い、本の内容によって勇気、優しさを身につけ、それが将来につながる原動力になると思う。また、イラストを利用した現代風の紙芝居などもどうだろうか。ビデオなど現在はいとも簡単に目、耳に入るようになり活字離れが見受けられるが、周りの大人が本を取り揃えてやり、本の楽しさ大切さを教えてやればい		乳幼児への読み聞かせは、重要だと考えております。 「イラストを利用した現代風の紙芝居」については、市立図書館の大型紙芝居等を活用願います。
(3)乳幼児の読書活動の対応策				
課題 1 家庭や保育所・幼稚園などにおいて、乳幼児が本に親しむことができる環境づくり				
現在の対応策				
a 親子の絵本プラン実施	P7	25 「クーポン券利用で～絵本と引き換えできる～」とは、無料で本がもらえるのか、それとも貸出か。詳細が分かりづらい。		クーポン券の金額の範囲内では無料で絵本との引換えができます。「親子の絵本プラン」の注釈の中に、指摘の点に関する記述を加えます。
	P7	26 例えば、クーポン券 3枚と絵本 1冊を交換できるなど、切りよくしてほしい。		対象の絵本の金額が異なっていることから、交換するクーポン券の枚数を統一するのは困難です。
	P7	27 今年はいつ頃から使用できるか。		平成 24年度は、6月からの事業実施予定とのことです。
b 保育所・幼稚園への図書館ボランティア派遣	P7	28 図書館ボランティアの派遣について、個人ボランティア団体にも派遣してほしい。地域・子育て支援ネットワーク連絡会)		今後、そのような対応も含め、具体的な事業等について検討していきます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容	意見等に対する対応
c おはなし会の開催	P7	29 小さな団体(子育てサークル)にも積極的に開催してほしい。サークルから会員に依頼しやすいように、情報提供も充実してほしい。	今後、そのような対応も含め、具体的な事業等について検討していきます。
d フォンテ文庫(明德館文庫)の開設	P7	30 時々行くことがあるが、午後の時間に利用している様子が見られなく残念に思っている。PRの方法や、きめ細かいサービスの工夫をして「子どものたまり場」とし、本に親しんでくれる親子がゆっくりできればと思う。近くの「子ども未来センター」とも連携してほしい。駐車場の問題もあるが、良策が見つからない。	フォンテ文庫については、施設概要や事業等の周知を図るなど、その利用促進に努めていきます。 なお、フォンテ文庫を利用する際には、電車やバスの公共交通機関の活用も検討願います。
	P7	31 行ってみたいと思うが、駐車料金が気になるため、長時間いることができない。何かよい対策があればと思う	フォンテ文庫を利用する際には、電車やバスの公共交通機関の活用も検討願います。
今後の対応策	P8	32 団体貸出しをするためには、本の冊数も必要。市の予算をもっとつけてほしい。	必要な予算措置について、努力していきます。
	P8	33 本を媒体として親子の絆が育つこともある。それは父親学級でも大事だと思う	読書の大切さを保護者に周知する中で、父親の理解も求めていきます。
	P8	34 心を育てるための本であれば、内容の良い本、小学校の中・高学年になれば親子で考え、共通した話題ができるような本が必要。読書は根本に家庭にあると思う。子どもが字を読めるようになると、読み聞かせをやめてしまう親が多い。	読書の大切さを保護者に周知する中で、読み聞かせの重要性についても呼びかけていきます。
a ブックスタート実施の検討	P8	35 読書につなげるには、ただ本を手渡すだけではなく、なぜ本が必要なのかを妊婦の時から学んでもらうようにするべき。	子どもの読書活動の重要性を周知する中で、これから親になる方の理解も求めていきます。
	P8	36 「～保護者に絵本を手渡し～」は、無料でもらえるものなのか、本を紹介するために手渡すのか、しっかりと内容を書いたほうがよいと思う	「ブックスタート」に関する注釈の中に、「無料で」との記述を加えます。
	P8	37 今実施している、絵本プランとかぶらないようにしてほしい。	ブックスタートは本市の全ての赤ちゃんを対象とする事業であり、在宅子育てについて利用するサービスを選択できる事業とは異なる内容のものです。
	P8	38 早く実施されればよいと思う	本計画の実現に努めてまいります。
	P8	39 ブックスタートは、早く実現してほしい。実現した際には、情報の発信に工夫してもらいたい。母子手帳の申請に来た妊婦さんに発信してほしい。また、司書が推薦する絵本の数を増やし、選択の幅を広げてほしい。更に、図書クーポン券の利用ガイドも同時に発信してほしい。	ブックスタート事業を実施する際には、指摘の点についても検討します。
b 親子の絵本プランの利用拡大	P8	40 ブックスタート実施など、子ども向けの絵本の情報提供は大切だ。どのような本を与えたら良いのか迷う保護者のナビゲーターになれる冊子、チラシ、ホームページの充実(定期的に継続)を図ってほしい。魁新聞のマザーズタッチ文庫(県子育て支援課)はとても参考になる。	子ども向け絵本など、本に関する情報の提供に努めていきます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
	P8	41	「お薦めする絵本のリスト」は子育て支援しているグループにも配付してもらいたい。	本市のホームページの中央図書館明德館のページに記載していますが、必要に応じてこれを印刷したものを送ることも可能です。
c 保育所・幼稚園の取組への支援	P8	42	読み聞かせだけでなく、ゲーム感覚も取り入れてはどうか。例えば、読み聞かせた本の題名(取り札)と内容(読み札)のカルタで遊ばせることで、ゲーム感覚でお話の内容を把握できる。	今後、対応等を検討する際に参考とします。
	P8	43	私の娘は今でも日本の歴史を良く覚えている。それは、小さい頃に買ってあげた日本の歴史の本がマンガだったからと本人も言っている。是非そのような本も取り入れてほしい。	今後、対応等を検討する際に参考とします。
	P8	44	「チラシ」配付より広報で恒常的に啓発した方がよい。「チラシ」は見る人と見ない人がいる。	周知については、効果的な方法等を検討していきます。
d 読書の大切さの周知	P8	45	乳幼児期に、子どもが本に親しむことの重要性や、どのようにすれば子どもが楽しく親しむ事ができるかを教えてほしい。	読書の大切さの周知を図る際に、指摘の点についても検討していきます。
	P8	46	情報の提供だけではなく、保護者が絵本に親しみを持つような講習会を開催してほしい。	親子で参加できる読み聞かせの会も保護者の参考になると思われますので、このような会への参加を検討願います。
	P8	47	「年長児へ、絵本の読み聞かせから一人読みへの橋渡しを意識した選書等の取組ができるように支援します。」のような内容を加えてはどうか。	市立図書館来館への配慮を図ることや本に関する情報提供に努めることにより、発達段階に応じた選書が円滑に行われるよう努めていきます。
	P9	48	親の代わりに1時間ほどでも子どもを見てあげることも良いと思う。	現時点では市立図書館で子どもを預かることは考えていませんが、今後、対応等を検討する際に参考とします。
課題3 図書館において小さな子どもと保護者が周囲を気にせず本を選べる環境の整備				
現在の対応策				
a 図書館の雰囲気づくり	P9	49	明德館が利用しづらい。子ども向けの本のコーナー付近に、大人や学生が利用する学習スペースがあるため、子どもが本を選びながら話をしていると迷惑顔をされたり職員の方に注意される。河辺図書館や新屋図書館、県立図書館のように独立したスペースにしてもらいたい。	「乳幼児と保護者の図書館来館への配慮」の中で、指摘の点についても検討していきます。
b 移動図書館の巡回	P9	50	要望だが、児童館や学童クラブ、子育てサークル活動をしている現場まで巡回してほしい。また、「大型紙芝居」をイソップ号にのせてほしい。	巡回スケジュールの関係から、巡回先を増やすことは困難ですので、最寄りのステーションの利用をお願いします。また、イソップ号は個人での利用を目的としており、団体利用については図書館での貸出しとなっています。
	P9	51	イソップ号が川尻コミセンに来る時間帯では、小学校中・高学年は学校にいるため、低学年の子どもしか利用できない。	今後、巡回スケジュールを見直す際の参考としますが、小学生については学校図書館の活用も検討願います。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
今後の対応策				
a 乳幼児と保護者の図書館来館への配慮	P9	52	乳幼児を持つ母親への配慮も必要。例えば授乳スペースの確保。ある図書館で授乳場所を聞いたところ、適切ではない場所を案内され違和感があったという声があった。	乳幼児と保護者の図書館来館への配慮」の中で、指摘の点についても検討していきます。
	P9	53	「赤ちゃんタイム」は良いアイデアだと思う。保護者が一人で乳児と幼児の双方を連れている場合、乳児が泣いたときの行き場がない。乳児をなだめるために外に連れ出しても、館内に幼児一人を残す訳にはいかず、楽しんでいる読書中断させることもある。それがストレスとなり図書館から足が遠のいたという声もある。「赤ちゃんタイム」以外では、職員かボランティアのサポートがあるといい。また、防音機能のある授乳スペースは、乳児と保護者の「行き場」にもなると思う。	乳幼児と保護者の図書館来館への配慮」の中で、指摘の点についても検討していきます。
	P9	54	「赤ちゃんタイム」を設けたり防音設備や間仕切りを設置」はとても良い取り組みだと思う。また、要望であるが、「赤ちゃんスペース」の場所で、子育てに関する情報(子育てサークルの紹介、子育てイベントの情報等)を発信してほしい。(子ども未来センターとの連携)	乳幼児と保護者の図書館来館への配慮」の中で、指摘の点についても検討していきます。
	P9	55	絵本を赤ちゃんが破ってしまった場合はどうなるか。	本を破損し貸出しに支障が生じた場合は、その方に同じ本を図書館用に購入してもらい、破損した本と交換することとしています。
	P9	56	「赤ちゃんタイム」は、いいアイデアだと思う。	本計画の実現に努めてまいります。
b 移動図書館の周知		P9	57 移動図書館の場所や日程の情報を積極的にPRとあるが、積極的にとはどのようなことが具体的に書いてほしい。また、その情報は何で知ることができるか加えてほしい。	移動図書館のスケジュールは、市のホームページや広報あきた等で周知していますが、ステーション付近に掲示が可能な場合にはそれも検討していきます。
2 小・中・高校生の読書活動		P10	58 「今後の対応策」には様々な取組があげられているが、ひとつひとつの内容が重要になってくると思う。訴える力のあるものにするためにも、それなりの見識ある方に携わってほしいと思う。	子どもの読書活動に関係する方からの意見等も参考に本計画を作成してきており、今後、事業等を実施する際にもそのような方の意見等に留意しながら進めていきます。
(1)小・中・高校生の読書活動の現状		P10	59 高校生になると読書が好き」の割合が減少することの対策として、学校図書館を含めた図書館の貸出し頻度をポイント化して、評価に加味する様なシステムにしたらどうか。	今後、対応等を検討する際に参考とします。
		P10	60 学校では、教師が生徒に読み聞かせの時間を持っているのか。私は、小学校低学年の時、先生が「母を訪ねて三千里」を読んでくれて、それを忘れていない。以来、私は読書マニアになった。もうこれくらいのゆとり教育は残されていないのか。	小・中学校においては、全校一斉朝読書等の取組を行っており、児童・生徒が本に親しむことができるよう指導しています。

質問・意見の部分	質問・意見の内容	意見等に対する対応
	P11 61 「小学4年生から～自分で購入する」とあるが、話題になっている本や人気のある本を予約しても、半年から1年くらい待たされてしまうことが多く、借りることから遠ざかってしまうようだ。	ここでは、子どもが自分で購入する場合について記述しています。 学校図書館や市立図書館に読みたい本をリクエストした場合については、在庫冊数やリクエスト数等によっては一定の期間がかかる場合も考えられます。
	P11 62 中学生の活字離れにより学力の低下が叫ばれている。学校における読書の重要性の指導により、読書への興味を持たせるようにしたい。現代の情報化社会によるパソコン等に振り回される毎日ではないようにしたい。	中学生に関しても、本計画に基づき読書活動の推進を図っていきます。
	P12 63 「本を読まない理由」をグラフにしているが、転勤で秋田に来る以前の地では、各小学校の学校図書館にそれぞれ司書が常駐し、子どもたちとコミュニケーションをとりながら読書の様々なアイデアを提供してくれたため、子どもの多くは楽しい場所として図書室を多く利用していた。秋田に来てから図書室へ行かなくなり、本を読む数がめっきり減ってしまった。司書の配置にも解決の糸口があると思う。子どもがどんな本が面白いかわからなかった時、担任のアドバイスで読書に気持ちに向いたことがあり、しかし担任が変わると本から離れてしまったので、担任の指導方法にも影響があると思う。	各学校における学校図書館の整備に加え、図書館サポーターやボランティアと連携を図り、学校図書館の魅力向上に努めます。 また、各学級においても、読書指導を継続的に実施しています。
(3)小・中・高校生の読書活動の対応策	P12 64 各学校で、図書館担当者を中心とする先生方による選書委員会を設け、各教科担当の意見を取り入れた選書を行うよう働きかけてはどうか。	各学校においては、学校図書館担当者を中心に各教科担当の意見も取り入れて選書を行っています。
	P12 65 子ども読書活動推進には、読書の力を知る大人を増やすことではないか。そのために「読書とは？」をきちんと語れる方が、保護者や先生に直接それを伝える機会を多くつづけてはどうか。	各学校では、読書の重要性を認識した上で取り組んでいます。また、保護者に関しては、家庭での読書の重要性の周知に努めていきます。
	P12 66 高校生の読書活動の低下に対する具体的な対策が示されていないように思う。	高校生の読書活動に関する記述を加えることとします。
	P12 67 PTAへの協力要請等も必要かと思う。	PTAも含め、保護者に対しては、家庭での読書の重要性の周知に努めていきます。
	P12 68 高校生の読書離れについて、大きな理由の一つに携帯電話があり、お小遣いはこれで消えるという。しかしいわゆる「携帯小説」があつて、作者自身、この反応を見て単行本に持って行くとも聞いている。この案には、電子ブックも含めて、全然触られていない。ここに記述しなくとも「指針」担当者は一つの見解を内々まとめておく必要があると思う。同じようなことは「漫画」にもある。	本計画においては、「携帯小説」「電子ブック」「漫画」については本の一部として扱っております。 電子ブック等の可能性やその功罪については、本計画とは別の場での検証を待ちたいと考えます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容	意見等に対する対応
課題1 子どもが主体的に読書活動に取り組むための支援			
現在の対応策			
b ブックトークの実施	P13	69 ブックトーク運動の幅を広げ、子どもからも本を紹介するようにはどうか。子ども同士で影響し合うことによる相乗効果や、子どもの自主性の向上も期待できるのではないか。また読書の意義として記載している「表現力を高め」について、読書することよりも発表の場数を踏むことで表現力が高まると思う	課題2の「学校図書館の環境整備」の今後の対応策「市立図書館事業の周知」において、その活用方法等の周知も図るほか、指摘を参考にブックトークの充実に努めます。
今後の対応策	P13	70 現在の対応策「e 図書館の受入れ態勢等」にあるとおり、市立図書館で受入れ態勢を工夫してもらっていることはありがたい。今後の対応策の中にも、子どもたちが市立図書館をより活用するためにという視点から項目を付け加えたらどうか。	第2章「4 図書館の活動」で記述したとおり、利用しやすい図書館の実現」を課題として、対応に努めていきます。
	P13	71 小学校3年生国語の教科書中に、図書館に行って工夫されていることを見つけ、本を選んで借りるといふ授業がある。この学習を学校と市立図書館が連携して進めたいものだ。その際、希望する学校が市のバス(科学館のバスなど)を利用できるとありがたい。また、貸出カードを持っていない子どもにもカードを作ることを働きかけると、子どもの市立図書館への関心や利用が高まるのではと思う	学校単位での市立図書館の利用については、今後の課題として検討していきます。
a 学校における読書指導の充実	P13	72 各小・中学校において～」には「高校」が入らないのか。	高校においても読書指導は行われいますが、全校一斉朝読書のような取組とは違う形で進められていることから、この記述には含めていません。 なお、高校生に関する今後の対応策については、「高校生読書の読書ニーズへの支援」の項目を加えることとします。
b 家庭での読書の重要性の周知	P13	73 子どもが読書をすることが、学ぶこと、感じることに大きな効果があり、また生活を豊かにしていくことなどの読書の重要性について～」の表現について、「生活の豊かさ」とは、「経済的な豊かさ」を想像するのは私だけだろうか。読書が経済的豊かさにつながることを否定するわけではないが、読書と生活の豊かさが隣り合わせにあるように思える表現には違和感を感じる。日常生活における心の持ち方などの表現が適切と思う	対象箇所を削除することとします。(74参照)
	P13	74 子どもが～することが～」と「が」の繰り返しがかかっている。この節が無理に一文になっているからだと思う。子どもが読書～豊かにしていくことなどの」を省略して、「家庭での読書の重要性について～」と始めた方がすっきりする。	子どもが読書することが～読書の重要性について」の表現を「子どもが家庭での読書の重要性について」に修正します。
	P13	75 「チラシ」配付より広報で恒常的に啓発した方がよい。「チラシ」は見る人と見ない人がいる。	指摘を参考に「広報あきた」を記述に加えます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
課題2 学校図書館の環境整備				
現在の対応策				
b 子ども読書夢プラン(県事業)の実施	P14	76	県事業としては「終了」しているのに、「～応じています」は不自然。「応じてきました」になるか。	指摘のとおり「～応じてきました」に修正します。
	P14	77	3行目「生徒」は削除すべき。	ご指摘のとおり「生徒」を削除します。
c 雄和図書館による支援実施	P14	78	「この事業により学校図書館の利活用に積極性が見られ、学校図書館が活性化してきました。図書救援は継続してこそ環境整備され、子どもたちの積極的な読書活動や学習活動につながっていくものとする」を加えてほしい。	現在の対応策」についての記述なので、その対応策の効果等に関しては割愛しています。 なお、本項目の内容は、「子ども読書夢プラン(県事業)の実施等」として、直前の項目と合わせて一つの項目にまとめます。
今後の対応策				
a 学校図書館に関する連携の推進	P14	79	身近に常に本があることが望ましい。学校では、学級、プレイルームなどに、子ども同士で楽しかった本を紹介している学校もあるようだ。	学級文庫等を設けている学校もあり、今後も、子どもが本に親しむことができる環境の整備に努めます。
	P14	80	連携の部分で、「子ども読書夢プラン(県事業)の実施」があって、県事業は23年度で終了となることから、今後の対応策には、県との連携が記載されていない。県や県立図書館との連携は必要でないのか。秋田市だけが実施するのではなく幅広く受入態勢を構築すべきと考える。	今後も秋田県との連携を図っていきますが、ここでは学校図書館の整備等に効果のあった県事業の役割を、これからどのように維持していくかについて記述しています。
	P14	81	どの学校図書館でも十分な蔵書が必要。不足しているところへは市立図書館の専用棚を設けてはどうか。管理が大変なのは承知の上だが。	学校図書館では計画的に蔵書を整備してきており、また、市立図書館では学校に対しても団体貸出しにより幅広く資料を提供しています。
	P14	82	環境整備は、ハード面だけではなく人的整備も重要であるとする。子どもが学校図書館へ行ったときにいつでも人がいる所であるよう、学校司書やサポーターの配置についても触れてもらいたい。	学校図書館担当、図書館サポーター、ボランティアが協力して、魅力的な学校図書館の実現に努めることとしています。
	P14	83	県の事業「子ども読書夢プラン」を活用している小学校は、平成24年度からはサポーターが来校する日が半分となり残念な気持ちでいる。しかし、全小学校へのサポーター配置がなかったわけなので、今後の充実を期待している。 中学校は人的配置が全くなく、生徒指導上の問題もあり、鍵がかかったままの図書館も多いと聞いている。乳幼児から小学校までの様々な対応策により読書の楽しさを覚えた子どもたちが、中学校へ進学すると学校図書館から離れてしまうのではないかと、学校の努力も必要だが、常時開けておけるよう行政からの人的支援もお願いしたい。	小学校に関しては、学校図書館担当、図書館サポーター、ボランティアが協力して、学校図書館の魅力向上に努めることとしています。 中学校に関しては、学校図書館担当が研修会で学んだ蔵書管理や展示方法等について、日常的な学校図書館の運営の充実につなげていきます。
	P14	84	魅力的な学校図書館の活性化につなげます。そのための事業資金の裏付けが必要です。」を加えてほしい。	これまでも学校の図書購入費等の予算の確保に努めてきておりますが、本市の財政状況の推移にも関係することでもあり、直接的な表現は避けたいと考えます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
	P14	85	学校図書館サポーターは、本に詳しいことはもちろんのこと、児童の心理や発達段階に理解がある人が望ましいと思う	今後、対応等を検討する際に参考とします。
b 子ども読書夢プラン事業に替わる事業の実施	P14	86	県の事業「子ども読書夢プラン」は平成23年度で終了することから、この推進計画が実施される平成24年度から5年間、秋田市としてどのような事業を進めるのかもっと具体的な対応策を書いてもらいたい。	平成24年度については、「子ども読書活動推進事業」として市内の小学校に図書館サポーターを派遣する事業を実施することとしていますが、平成25年度以降の対応については今後検討していくこととなりますので、このような記述としたものです。
c 学校図書に関する相談窓口の開設	P15	87	「～相談できるよう市立図書館に学校図書に関する～」の部分に、相談できる対象者を具体的にいれた方がよい。	指摘のとおり「学校図書館担当が、その環境整備や選書の相談ができるよう～」と修正します。
d 市立図書館事業等の周知	P15	88	「～上手な活用方法について」の後に「ホームページや」を入れる。	指摘を参考に「ホームページやパンフレット、広報などにより～」と修正します。
	P15	89	パンフレットは公的に必要と思うが、パンフレット、広報などにより周知に努める」にした方がよい。	指摘を参考に「ホームページやパンフレット、広報などにより～」と修正します。
3 読書関係ボランティアの活動				
(3) 読書関係ボランティアの活動の対応策				
課題1 ボランティア会員の確保				
今後の対応策	P17	90	ボランティアの養成講座は、新たな会員を確保するための講座だけでなく、活動中のボランティアに対して、活動内容の向上を目指すための講座も開催してほしい。とりわけ、小学校で読み聞かせをするボランティアが、一人読み(読書)につながるような取組を学ぶ機会があれば、読書活動推進に有効ではないか。	ボランティア養成講座を実施する際に、指摘の点も検討していきます。
a 読書関係ボランティアの養成	P17	91	「～新たなボランティア養成講座を開催します。」を「全館共催の定期的なボランティア養成講座を開催します。」に訂正。個々の図書館事業としては職員や人材の点で無理かと考える。	ボランティア養成講座の具体的な進め方については、今後、検討していきます。
	P17	92	「～新たなボランティア養成講座を開催します。」の文中に養成講座の具体的な内容の明示があればよいと思う	ボランティア養成講座の具体的な内容等については、今後、検討していきます。
課題2 ボランティア活動に関する支援	P17	93	図書館ボランティアの活動はパターン化していて面白みを感じない。私たちのサークルでは「森のおはなしかい」を月に1回取り組んでいる。森の木の切り株に腰掛けたり原っぱにビニールシートを敷いて、童歌と素話と絵本を読む。自然の中の空気や風、光が子どもたちのファンタジーを膨らませてくれるようだ。このような「甕空読書会」をしたり子育て家庭向けのブックカフェで、お互いのお薦めの本をシェアする企画などのアイデアを発信してほしい。	今後、ボランティアの活動紹介などを通じて、情報提供に努めていきます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容		意見等に対する対応
	今後の対応策	P18	94 秋田在住の読み聞かせや朗読の活動をしている人たちの紹介があれば育児サークルに招きたい。子どもに限らず活字が苦手と思い込んでいる人たちも、読み聞かせや朗読に親しむ事をきっかけに読書好きになる可能性がある。	今後、ボランティアの活動紹介などを通して、情報提供に努めていきます。
	a 図書館による情報提供の充実	P18	95 図書館が、図書館ボランティアの活動を紹介することはできると思うが、他の読書関係ボランティアの情報発信も行うのか。	今後、ボランティアの活動紹介などを通して、情報提供に努めていきます。
4	図書館の活動			
	(3)図書館の活動の対応策			
	課題1 利用しやすい図書館の実現	P21	96 乳幼児の母子がとにかく足を運んでくれそうな企画を開催。その事を広報などで紹介してほしい。	利用しやすい図書館の実現に向けて、事業の企画や広報活動に努めていきます。
	現在の対応策			
	b 移動図書館の巡回	P21	97 晴れの日にはイソップ号を少し広めにして、車の外部でも読めるように折りたたみ式ベンチを設けて、親子や地域住民が子どもを連れて行くことや、地域の方々にも役に立つ図書を用意して、子どもだけでなく住民も読めるよう雰囲気づくりに心がけてもらいたい。それには現在の停車時間を20分ほど延長してもらいたい。	現在の設備や巡回スケジュールでは対応が困難ですが、今後の検討の参考とします。
	今後の対応策			
	c 貸出し冊数の増	P22	98 子どもに読書の楽しさを教えていくことはとても大切なことだと思う。図書館に小さい子どもを連れて行っても本を選ぶのも大変だし、子どもと一緒にいるスペースも狭いように感じる。本も早めに読みたいと思っているだろうから、もう少し本の数があるといいのではないか。	図書館の雰囲気づくりや魅力ある蔵書の整備に努めていきます。
	課題2 図書館事業等の充実			
	現在の対応策			
	a 図書館主催事業の実施	P22	99 読書感想文コンクールに関して、読み終わった書籍に、意見感想等を書き込み、次の人が興味を持ち読んでくれる機会を増やして、それを掲示板に貼る等の工夫もよいのではと思う。	今後、対応等を検討する際に参考とします。
	今後の対応策	P22	100 不要な本を公共の施設で引き取って必要な市民にプレゼントする制度があればと思う。	市立図書館でも市民からの寄贈は受けていますが、現時点では市民へのプレゼントを目的とする取組については考えていません。
		P22	101 図書館の駐車場の問題も大きい。	図書館の駐車場を改善するには、施設改修等が必要となることから、本計画では対応策として取り上げてはいたませんが、長期的な課題として検討していきます。
		P22	102 「小・中・高校の学校図書館担当者の研修機会の提供」として学校図書館担当者が、読書の喜びや魅力を発信する力量を高められるような研修の機会を提供していきます。」と加えてはどうか。	課題3図書館の情報提供機能の強化」の今後の対応として「b 子どもの読書活動に関する情報交換」の記述にある「～学校図書担当者～子ども読書活動に関する情報交換の機会の確保に努めます。」で、研修の効果も想定した情報交換の実施を検討しています。

質問・意見の部分				質問・意見の内容		意見等に対する対応	
		c 子ども読書夢プラン事業に替わる事業の実施	P23	103	秋田市での事業として承認されたのか。	平成24年度については、「子ども読書活動推進事業」として市内の小学校に図書館サポーターを派遣する事業を実施することとしています。平成25年度以降については、同様の事業の実施を今後検討していきます。	
		課題3 図書館の情報提供機能の強化					
		今後の対応策					
		a 図書館による情報提供の充実	P24	104	公立図書館としての役割を分担し、利用者数など数値にこだわらず、地域の特色を出すことを明確に表現してみてもどうか。	市民の幅広いニーズに応えるために図書館としての総合的な機能が必要となりますが、例えば土崎図書館には「種蒔く人」資料展示室を併設し、雄和図書館には石井露月資料室を併設するなど、地域の特色にも配慮しながら図書館の整備を進めています。	
			P24	105	子育て中は忙しく、高齢者などはホームページなど開けない方も多いと思う。市民が目を通す広報に、固定したスペースを確保し、親しみやすいタイトルで移動図書館の日程以外にも本の紹介など掲載するなど、広報を活用したらどうか。	これまでも広報あきたを利用した情報提供を行っており、今後もその活用に努めます。	
第3章	まとめ		P25	106	6～7行目「～子どもの成長段階に応じて、家庭、地域、～が協力し、読書活動を推進していく必要が～」を、「～家庭、地域、～が協力し、子どもの成長段階に応じた読書活動を推進していく必要が～」とした方が良いのではないか。	指摘のとおり、「～家庭、地域、～が協力し、子どもの成長段階に応じた読書活動を推進していく必要が～」と修正します。	
			P25	107	4行目「～読書する喜びを伝え、読書の魅力を周知し続ける～」は、「～読書～を～」が重なっているので、「～読書の喜びや魅力を伝え、周知し続ける～」ではどうか。	指摘を参考に、「～読書する喜びを伝えていく～」と修正します。	
全般的				108	「対応策」について、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第6条保護者は「読書活動の習慣化に積極的な役割を果たす」としている。保護者が役割を果たすことができるような、家庭での読書活動支援や啓発のより強いメッセージが必要と思う。	家庭における子どもの読書活動の重要性を周知する中で、保護者の意識啓発を図っていきます。	
				109	親の経済状況等で読書に親しめない環境にある子どももいると思うが、これらに対する対応はどこに盛り込まれているのか。ボランティアをお願いするのならば理解できるが。	保護者の経済的理由により子どもが読書に親しめない環境に関しては、本の入手が困難である場合については、全ての赤ちゃんに絵本を渡すブックスタート事業や市立図書館来館者への配慮等を通じた対応を考えており、また、家庭での読み聞かせ等の時間的余裕がない場合については、読書の大切さの周知を通じて保護者の理解を深め、可能な範囲での取組を求めていきたいと考えております。	
				110	大人も含めた市民、県民の読書活動推進が必要と思う。	現在のところ、全市民を対象とする読書活動推進計画の策定は考えておりませんが、市立図書館においては今後も市民の読書活動を支援していきます。	

質問・意見の部分	質問・意見の内容	意見等に対する対応
	111 4月23日の子ども読書の日、あまり知られていないのではと思う。読書週間とか読書月間など設定し、さらに子どもたちが本を好きになるように行事やイベントを実施してほしい。本は、乳幼児の躰、健全育成、絆づくりにもつながる大切な心の栄養だ。	「子ども読書の日」や「子どもの読書週間」と連動した取組を検討するなど、子どもの読書活動の推進に向けた活動を図っていきます。
	112 昔は、朝に家庭で朝読みという取組みがあったが、現在は共働きが多く朝に時間のゆとりが全くない状態。学校で10分でも朝自習を読書時間としたり、時間を取ってもらうと少し本に興味を持つのではないかと思う。とにかく子どもたちは忙しく土・日曜日も朝から晩までスポ少活動、宿題で手一杯になっている。図書館に、合間を見て連れて行き、本を借りてきてもゆっくり読む暇がない。	小中学校では、全校一斉朝読書や親子読書の推奨などの取組を行っています。 子ども自身に時間的余裕がない場合については、短い時間でも継続して読書する習慣を持つことの大切さを周知していきます。
	113 全体的に趣旨は理解できた。私たちが行っている育児サークルで、子どもが読書に親しむ事ができるよう、毎回読み聞かせをやっていこうと思った。秋田市として、こうした取組があることを広く知ってもらうため「この本オススメコーナー」などをテレビの秋田市だよりで放映するのはどうだろうか。本好きの子どもに育てるには大人が本を楽しく読んでいる環境が一番だと思う。	子どもの読書活動推進に係る取組等に関しては、市政テレビ番組を活用した広報についても検討していきます。
	114 県の取組と重なる部分が多いように感じる。市民側からすると、情報を1本化して分かりやすくしてほしい。	本計画に基づく事業を実施する際には、秋田県の取組等を把握した上で効果的な事業とするよう努めていきます。
	115 様々な対応策があげられているが、実施時期計画を示してもらうことは可能か。	できるだけ早期に実施したいと考えていますが、現時点では明確な時期は確定していないため記載しておりません。実施時期を含め、事業の内容が決まりましたら、その周知に努めます。
	116 各町内には児童館又は公民館など必ずある。図書館に行かずとも町内にそのような場を作ってもいいのではないか。各家庭から1・2冊の本を持ち寄りよれば必ず集まると信じる。家の近くに図書館のようなもの(持ち寄り図書館)があれば、少しは子どもも親も、ふれあいが生まれるのではないか。	今後、対応等を検討する際に参考にします。
	117 図書室があり、思い切り遊べる児童会館のような施設が、各地区に少しでも多くあればいいと思う。	本市では、児童館、児童センター、児童室を整備しており、ここでは子ども向けの本を備えていますので、このような施設の活用も進めていきます。

質問・意見の部分	質問・意見の内容	意見等に対する対応
その他	118 内容は大変立派だが、さてこれを誰が担当するのだろうかと思うと、司書の方に同情してしまう。その業務は多岐にわたっている。あまり窓口が広くて、しかも貸出業務を行いながら読み聞かせをやり、研修の講師をやり、相談窓口を勤め、加えて創造的な企画・立案をせよといっているのだから、司書本人に考える時間を与えないと、頭脳は枯渇し表情がゆがんでいく。今度は、逆方向に舵を切って、開館時間を短縮し勤務に余裕を持たせることも考えてもいいような気がする。それが図書館の活動を充実させる一番の近道のように思えてならない。	現時点では市立図書館の開館時間の短縮は考えていませんが、図書館職員等の人材の活用に関しては指摘の点も配慮しながら進めていきます。
	119 毎日の生活の中で読み聞かせることは大変なことと思う。親の仕事が多忙であったり、祖父母がいない家庭など多い。私事であるが、自分が本が好きだったせいか、子どもたちには本を毎日とは言えないが読み聞かせたものであった。そのせいかどうかは判らないが、学校の読書感想文などで賞をいただいたものだ。今の生活環境では厳しいものがあると思う。 秋田市で読書活動について力を入れている事には大変良いことと思う。また、保育所・幼稚園などには本が揃っていると思うが、近所の子どもがいる家に行ったとき、本は全くなくゲーム機や高価なおもちゃであふれており驚いた。生活が大変だと言いつつ、子ども手当などもらいながら、のんびりしているように思える。	家庭における子どもの読書活動の重要性を周知する中で、保護者の理解を求めています。
	120 貸出冊数を増やしてくれたのは、すごくいいと思っている。私の子どもは雄和の小学校に通っているので、図書館の方が来てくれてとてもいいと思っている。推進計画はとてもいいと思う。	本計画の実現に努めていきます。
	121 人生を豊かに、時代を生き抜く智恵を与えてくれる読書こそ秋田県民に不可欠だと思う。このような時代、人々は多くの悩みを持って生きているが、読書する習慣がある人は書物に助けられると思う。私もささやかな活動の中で、一人でも多く本好きな人に育ってもらえるよう考えのある活動をしていきたいと感じた。	市民や関係機関等の協力を得ながら、本計画の実現に努めていきます。
	122 私たち子育てサークル担当者として、図書ボランティアの方に絵本の読み聞かせを依頼したいと考えている。	図書館ボランティアの派遣について、円滑に実施できるよう努めていきます。
	123 親子の絵本プランの利用が思わしくないことを残念に思う。絵本の紹介欄を見て分かるように、乳幼児が食いついてきそうな本がたくさんある。子育て支援の団体として、その機会を逃さないように活用させてもらっている。	親子の絵本プランについての周知を図り、その活用を進めていきます。
	124 本との出会いは大切なことだと思う。この活動を心より嬉しく読まさせてもらった。	本計画の実現に努めていきます。

質問・意見の部分		質問・意見の内容	意見等に対する対応
	125	「今後の対応策」は全体的によいと思った。	本計画の実現に努めていきます。
	126	大変分かりやすく良いと思う	本計画の実現に努めていきます。